# 小学校全校児童ワークショップ

● 日時:2014.10.18、13:10~15:15

● 場所:福島県村立小学校、体育館にて

- 対象:全校児童86名+保護者&先生64名=140名によるワークショップ
- 講師:みらい育ティーチャー3名
- 絵本「じっとみて。」の制作









# 目標 : PTA活動の行事(秋の祭り)として、全校児童が学年間を超え、より良い交流を目指します。

- ・自分が主人公の絵本を作ることで、自分を発見・再確認し、「今を頑張りたくなる気持ち」を育む。
- ・1年生~6年生まで縦割りグループで、学年間を超えた交流を通して、思いやりや優しい気持ちを感じ合う。
- ・絵本を通じて、自己開示したり、されたりすることで、自己肯定感、他者肯定感、多様な価値観について感じ取る。

# ワークショップ風景



# 1) こんにちは!

全校生徒+保護者の みなさんが講堂に一同に 集まりました。

これから始まるワークショップの内容説明に 140名の参加者が真剣に耳を傾けています。 何が始まるのか期待に胸を膨らませています。



# ② ウォーミングアップ

表紙のイラストで、残像トレーニングをしました。 誰もがみんな20秒間×2回、集中する時間を持ちました。 「おお、みえた!」「え~~、ぜんぜん見えないよぉ。」の歓声がわき上がる中、



# ③制作開始

まずは、はじまりのタネのシーンから制作です。 目を閉じて、自分自身の内面をじっとみつめてイメージを探しに出かけます。 思考の冒険が始まりました。





イメージが浮かび、描きはじめると 集中力がマックス状態になっていきます。 どのように考えたらいいか、よくわからない児童には ティーチャーが個別で対応し、全員描くことができました。

# ④ 絵本の交換

「ねぇねぇ、感想書いて一」「じゃ、交換ね」とみんな楽しそうです。

絵のできた人から積極的に絵本を交換し合って

感想を書いてあげたり、書いてもらったり、グループ内で交流します。 「ほめてあげましょう」の声がけは一切しませんが、書かれる感想は自ずと全肯定です。

ですから、他者の感想は自分にとって、とても嬉しいものとなります。 自己肯定感をさらに高める大きな要因です。

このほめてもらいたい気持ちは、積極的な行動への原動力となり、 より多くの人からの感想を求めて、他グループとの交流が盛んに行われました。



--自分の絵に感想を書いてもらう間、 他者へ感想を真剣に書き込んでいます。 立ち上がっているのは、移動中のため。 このあとも、積極的に他グループと 交流していきました。



-自分の絵を誰かに話したい気持ちは 新たな行動を生み出しました。 先生のところへ自ら出向き、お話しています。

# (5) 発表

「世界にたった一冊の絵本」が完成!2人1組になって発表した後、 みんなの前で発表したい人が挙手後、自主的に前方ステージへ出てきました。 「あれ?女子がいない?」と気づいて恥ずかしそうに退却している 微笑ましいシーンです。

# 作品紹介/小学5年生男子



ー 冷たく、すごく固いというイメージの中にも 中央のピンクの芯がやさしさを主張しています。



あふれる純度の高い自分が表現されました。



じっとみて。の ながいページがよかった。たのしかったです。(6歳) キーワードで ・とてもたのしくなった。すごくいい本になった。(7歳) 突然じっとみつめあう 男子児童2名。 自分のことが分かったのでよかったです。(8歳) 楽しんでいる様子が

・息子が喜んで考えていたと思います。カラフルな絵を描

# エピソード②



いていたことが嬉しく、驚きました。(8歳男児母)

・自分の中をみて、自分てこうなんだな、とわかりました。

• (9歳)

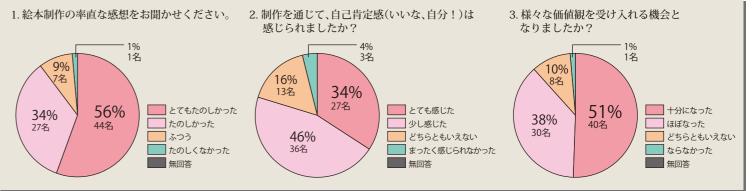
いろいろな所から自分を見つめる事で、これまでの自分

- ・を知ることができた。自分の良い所や悪い所なども知れ てよかった。(10歳)
- 私は、絵があまりうまくなくて、今日、自分の絵をかい てみたらへたじゃないと思いました。(11歳) 自分で絵本を作ったことはあったけど、自分をみつめて

書くのははじめてだったのでたのしかったです!(12歳)

## アンケート集計

(79名回答)



04 (CASE-02) 小学校全校児童ワークショップの事例